



今年のとうがさんでゴミ拾いをした、
広島国際学院大学の学生たち



感動塾みちくさ、小・中学生の自然観察や実験のお手伝い

市内の大学の主なボランティア講義

座談会の中で出てきた、各大学でのボランティア・NPOに関する科目。最近でこそ盛んになったこれらの講義ですが、中には、何年も前から続けている大学もあります。そこで、市内の大学で行われている主な講義について、その内容や特徴などをまとめてみました。

大 学 名		講義名	授業担当者	開講時期	講 義 内 容 や 特 徴
比治山大学	短期大学部	ボランティアワーク	柿本因子	平成10年度～	①通年。前期は1週に1コマの講義、後期は実質30時間の実習と、適宜事前・事後講義 ②ボランティアを通して自分を知り、視野を広げてもらう ③NPO・行政・企業などから講師を招き、ボランティア実践方法を具体的に学習。実習先は、自分のやりたいボランティアを学生が自分で探す
広島国際学院大学	現代社会学部	ボランティアとNPOの社会学	田中里美 眞鍋知子	平成15年度～	①通年。ほぼ隔週で1コマの講義。そのほかボランティア実習30時間 ②他者と関わり合うことでコミュニケーション能力を磨く ③ボランティア・NPO経験者を招き実践例や理念について学ぶ。実習に当たっては、学生にカウンセリングをしながらのフォローを行う
広島修道大学	人間環境学部	環境NPO・NGO	森嶋 彰	平成14年度後期	①半期。1週間に1コマ ②NPO活動をライフワークとしてくれる学生が増えることを目指す ③NPO・NGOの歴史や現場について学ぶほか、海外のNGO活動現場でのインターンシップも計画中
		ボランティア論	河内昌彦	平成15年度～	①半期。1週間に1コマ ②ボランティア活動を実践してもらうための足掛かりにしてほしい ③社会福祉・まちづくり・自然保護など多様な分野のボランティア活動のあり方を紹介し、機能的かつ有効的な活動方法について講義する
広島大学	全学部	現代ボランティア論	日下部真一	平成8年度～	①半期。1週間に1コマ ②講義を通して世界を見る批判的精神を培う ③ボランティアを実践している人を招き、現場と学生の間にネットワークを作れるような講義を目指す
		障害者支援ボランティア概論	吉原正治	平成13年度～	①3日×5コマの集中講義 ②バリアフリー・キャンパスの実現の一環として開講 ③障害に対する基礎知識と支援技術の概説を保健管理センター、教育学部、総合科学部の専門教官らで行う。きめ細かい支援にはボランティアの役割が重要で、その基礎も概説
		障害学生支援ボランティア実習			①半期。1週間に実習1コマ ②本学の障害学生への具体的な支援を行い、支援技術も習得する ③支援の内容は情報保障、就学支援が主体であり、ノートテイク、ビデオ文字化、パソコン点訳などのコースに分かれて実習。専門科による実技の講習会も開催
安田女子大学	文学部	ボランティア論	清水哲臣	平成10年度～	①半期。1週間に1コマ ②社会の問題を自分の問題としてとらえてほしい ③ボランティア活動を支える思想にポイントを置き、社会福祉・災害援助・環境問題など具体的な活動内容を紹介
マツダ財団 寄付講義	単位互換科目 (平成15年度は広島国際学院大学で実施)	国際協力～ボランティア活動	永松貴文	平成12年度～	①2日間の集中講義。30時間以上または2泊3日以上ボランティア実習 ②ボランティアをすることにより自己犠牲を越える感動を体験してもらう ③複数の専門講師による集中講義でボランティア活動に必要な基本的知識・方法を学び、それを実習で生かす。財団主催の「感動塾・みちくさ」への参加も促進

①講義時間 ②狙いと目的 ③講義内容



永松貴文さん
財団法人マツダ財団 事務局長代理

大学同士のネットワークはどうなっていますか？

眞鍋 今回新しい講義を始めるに当たって、ほかの大学にお聞きしたのですが、なかなか教えていただけませんでした。そこで、独自にカリキュラムをつくっていったのですが……。ほかの大学と二階に何かをするのは難しいですね。

日下部 やらうと思ってもやれないというのが現実だと思えます。時間の調整、日程の調整などに時間を取られますし。

竹本 広島の中で、ボランティア論とかNPOの考え、方自体の刷り合わせがほとんどとれていないことも課題です。

永松 ボランティアは、人ひとりが違う定義を持ってやっているので、統一するのは難しいですね。

竹本 その一人ひとりが違う認識を持っているんだというところを理解するところまでいくのに、結構時間がかかるんです。

日下部 ボランティアという言葉自体が外国語じゃないですか。一般的に無償の奉仕活動というところをえ方をされていますが、それでは本当のボランティアというのは発展していきません。

竹本 大げさに言うとも、市民社会がその意識を変えていかなくちゃならないわけですね。

アットホームなプラットホームを

ボランティアの授業を受けてそれで終わりではなく、リーダーになるような人が育たなければ、つながっていきませんよね。

竹本 大学を卒業してボランティアを続けようと思っても、なかなかそれができるような社会環境がないんです。特に若い間は、新しい職場でわがままも言えず、

土日も時間が取れなかったりする。

永松 ボランティアをやることを企業としては推進していますが、社会全体がその方向に向かっているかと言えば、それは……。とはいえ徐々に、企業の中でもボランティアを行いやすくする環境の整備が図られつつあると思います。

日下部 大学のボランティア講義で2、3人、意識の高い学生を育てられるかもしれません。しかし、それだけでは全体の構造改革は起こせません。

竹本 最近では、ボランティアを仕事にしたいという学生が少しずつ出てきています。そういう人たちがグレイドアップできるような社会をつくっていかないと……。

眞鍋 学生の就職先の一つにNPOもある、という社会にしたいですね。

講義があつて、体験があつて、さらに社会に受け皿もちゃんとあるということですね。

日下部 そういう社会をみんなで作るためにも、ボランティア活動に関心のある学生や、NPOメンバーたちが気楽に意見交換できるような、ボランティア・プラットホームみたいなものがあるといいと思います。

——このプラザがプラットホームになれば……。日下部 アットホームなプラットホームにね。

永松 そして、ボランティア講義を受講した学生から、本音の意見が聞ければいいですね。少し怖い気もしますが……。――

広島に、学べる場、体験する場、支援をしてもらえる場、さらには働ける場というボランティアのモデルケースをつくっていききたいですね。今回は、社会構造にも肉薄する内容ある話を聞かせていただき、ありがとうございました。

市民交流プラザで行った、広島国際学院大学の学生相談会

